

会議結果報告書

会議名称	第9回札幌市子どもの権利条例制定検討委員会
日時・会場	平成17年11月23日(土) 16:00~19:30 STV北2条ビル5号会議室
出席委員 (敬称略)	20名出席(5名欠席)
次回開催	・平成17年12月9日(金) 18:00~ WEST19研修室A・B(2階)

議題	意見等
(1)中間答申書について 第3章 条例の課題	
1 どのような条例を 目指すべきか	<p>(2)「条例検討子ども会議」の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条例検討子ども会議としたことの意味はあるのか。 ・委員会という名称では堅苦しさを感ずる。上から降りてきたシステムのように見える。 ・逐次検討ということで委員会のほうがふさわしい。 ・いろいろ議論してから名称は考えたほうがいい。
2 札幌の子どもたちの 実像から見た条例 の課題	<p>(1) みんなで「子どもの権利」を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権を大事にする保育について考えているが、ここには大人が「子どもの権利」を学ぶという記載が少ないのではないかと。 <p>(2) 生活の中での権利保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2行目で「小学校・中学校・高校時代は『子ども期』真っ只中」「最も輝ける時期」とあるが、文言は適当か。 ・子ども期は大切にされなければならないという言葉でいいと思う。 ・「進学実現」の表現は、強調するための言葉だが他の表現にしたほうがいいと思う。 ・強調の括弧を外す。 ・その後の文章も変えた方がいい。 ・「進学することを最大の目的として～」とした方がいい。 ・「自分のことが好きか」の所に他国のデータも入れるべきだ。 ・子ども期の中で重要なのは入学前だと思う。 ・入学以前に民法上では出てこない胎児の問題はどうなるのか。墮胎などの問題もある。 ・「子どもの権利条約」の子どもの定義(0歳~18歳未満)と同じ解釈でよいと思う。 ・札幌固有の内容を盛り込んだ方がいいのではないかと。滋賀県で行ったアンケートが暴力・虐待が1位だったのに対し、幼児・小学生部会が独自に作成実施した出向き調査におけるアンケート調査では、「家族と一緒にいたい」が1位であった。札幌の特徴と云えないだろうか。 ・データについては気をつけなければいけない。ただ単に数字を上げるよりも、例えば、「なぜネグレクトが多いのか」「なぜ家族と一緒にいたいのか」それを分析して盛り込むべき。 <p>(3) あらゆる場面で、子どもの意見表明・参加の権利を保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動とあるが、小学校の児童会もあるので、「児童会や生徒会活動など」に改める。 <p>(4) 居場所の確保と子どもが育つ環境に対する特別の保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・29ページの(2)では子ども期でこの項では「子ども時代」となっているので表記を統一する。 ・公民館は月寒公民館が1館あるが、他は区民センターなので、「公民館・地区センター」という表現に改める。 ・「入場・参加しやすい」の所に「活動」を入れて、「入場・参加・活動」と改める。 ・特別な保護とあるが建造物の規制も入るのか。 ・高層建築物による日照権の問題も生じてくる。 ・居場所という言葉でない表現を使った方がいいのではないかと。 ・現在、札幌の子どもにとって一番の問題は物理的な居場所の問題もあるが時間が無いということである。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ここには物理的な居場所のことは書かれているが、精神的な居場所について書かれていないのでそれを付け足すべきではないか。 ・アンケートでも家族と一緒にいたいという結果が出ているが、家が一番の居場所なのではないか。 ・家族に期待するという先の意見は(6)の問題。 ・精神的な居場所は(6)にある。ここでは焦点を絞って物理的な居場所にする。 <p>(5) 障がい児及びマイノリティー(先住民族であるアイヌ民族・外国籍の人・帰国者など)の子どもたちへの権利保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性的マイノリティーについてもう少し書きたい。統合教育についても記述してみた。 ・養護学校その他についてまとめた。 ・分量的に問題があるかもしれないが26ページまでの所を全面的に差し替える。 ・「3章 条例の課題」には、条例をつくるに当たっての課題を書くところなので、現状は、第2章で詳細に細かく書くことにしたい。 ・性的マイノリティーの問題は現状の所に入れる。 ・アイヌの問題については「私たちの札幌」という学習用教材でアイヌ民族に関する記述がある。 ・項立てに関しては一括りにするのが難しい。障がい者とマイノリティーを一緒にまとめて記述していたが、それぞれ独立して項立てしたい。
<p>3 平成17年11月20日から11月23日に作成された原稿</p>	<p>1 保育園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「信頼できる大人」の所を「保護者・大人」と変える。 ・「構築できず」を「築きにくく」とする。 ・「依存構造喪失」の部分は分かり易い表現に書き換える。 <p>3 小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(追加事項の説明) ・統合教育と特別支援教育をどうするべきか。 ・中学の書き方に統一する。
<p>4 札幌の子どもたちの実像から見た条例の課題</p>	<p>(6) 子どもの育ちや成長へ関わる人への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族支援を親子支援という表現にするべきか。 ・親子支援では一般的に分からないと思うので家族支援とする。 ・子育て支援のほかに子育て支援も入れ、子育て支援・子育て支援・家族支援という形で併記する。 <p>(7) 子どもの権利に関する専門委員会の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度と救済を分けた。 ・川崎・小杉・多治見には委員会に子ども委員はいないが、札幌で子ども委員をいれるとするならば、画期的ではないか。 <p>(8) 権利救済制度の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「その予防をする勧告・監視する」を「予防・勧告・監視」に変える。
<p>5 事務局からの連絡</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は正副部会長会議が12月5日、検討委員会が12月9日ということになっていたが28日に正副部会長会議を追加、17日に検討委員会を追加する。 ・高校生の委員は分からないと思われる所を指摘してもらいたい。 ・2月末か3月にフォーラムを行う。 ・中間答申は12月末に上田市長に提出した後、市民に配布できる状態にしてダイジェスト版を出す。 ・手紙と電話・FAXを記載する。
<p>6 次回開催日</p>	<p>12月9日(金) 18:00～</p>